

横浜“三溪園”散歩

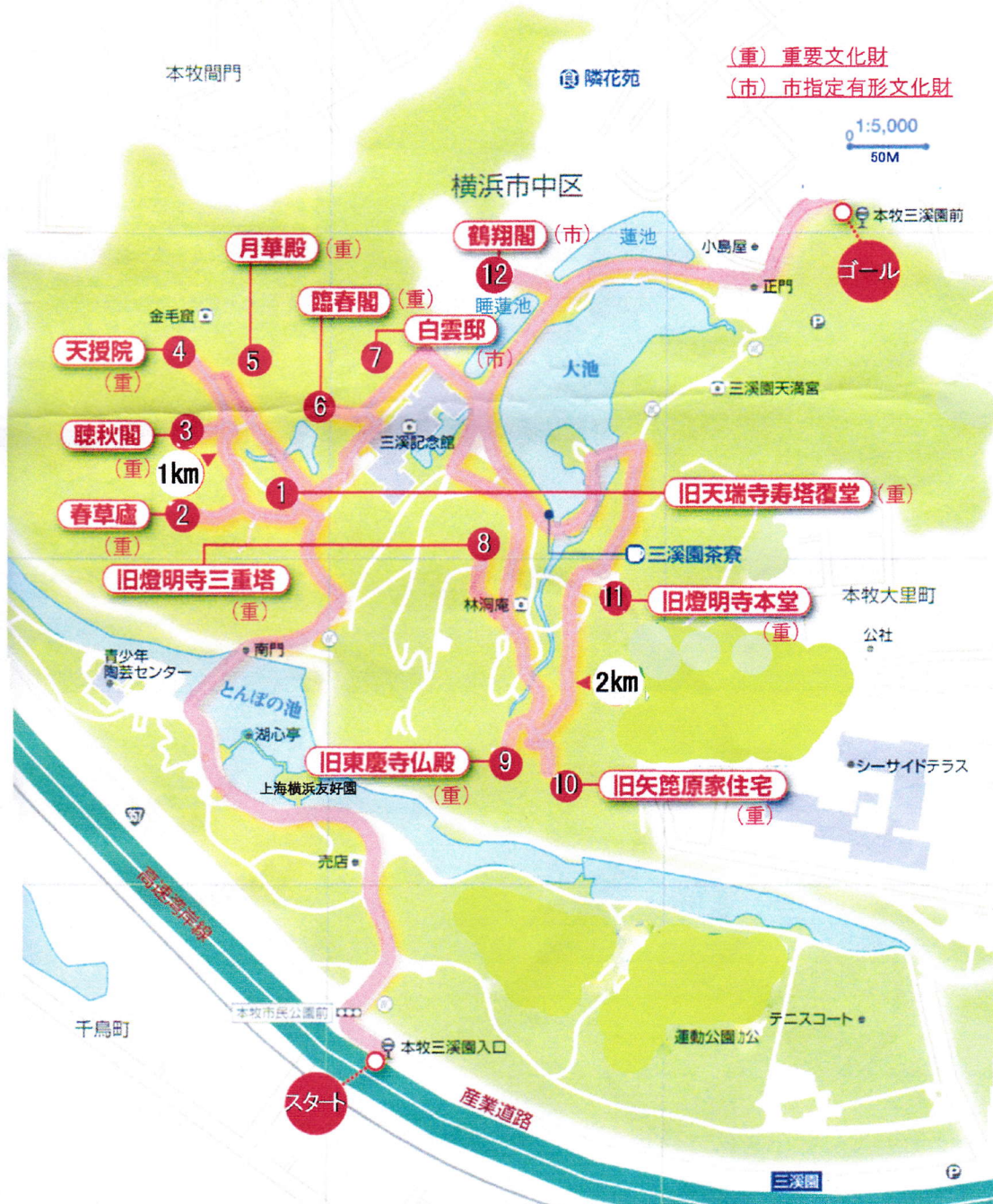
神奈川県
ハイキングサークル
平成27年6月27日(土)

《スタート点(バス停本牧三溪園入り口)～ゴール点(バス停本牧三溪園前)》

コース

根岸駅前 バス⑦番乗場 乗車→本牧三溪園入り口下車……上海横浜友好園……とんぼ池の橋
…三溪園南門……①旧天瑞寺寿塔覆堂～②鶴翔閣……正門……本牧三溪園前バス停
バス8系・148系乗車→桜木町駅前下車 バス料金¥220円 三溪園入園料¥500円

バスダイヤ 8系 横浜駅行 13時16分・14時1分・14時46分・15時32分
148系 急行横浜駅行 13時39分・14時27分・15時9分



1 旧天瑞寺寿塔覆堂

きゅうてんずいじじゅうたうおおいどう

秀吉が母のために建てた 長寿を祝う寿塔の覆堂

天正19年(1591)建築、豊臣秀吉が母のために建てた寿塔を覆うための建物。秀吉の創建と確認できる数少ない建築のひとつ。



迦陵頻伽や蓮の花など、彫りの深い彫刻は荘厳さを感じさせる

2 春草廬

しゅんそうろ

九窓亭と呼ばれた 三畳台目の小間茶室

茶室内に9つの窓があることから、九窓亭と呼ばれていた。多くの窓が華やかな印象を与える。織田有楽の作品とされている。



新緑と紅葉の時期には間近で見学できる



一段下がった入口は、舟から直接入るためともいわれる

3 聴秋閣

ちゅうしゅうかく

国内でも異彩を放つ 特徴的な2層建築

元和9年(1623)江戸3代将軍徳川家光により建てられたとされる2層構造の楼閣建築。S字状の階段や、平面を斜めにした部分を書院窓とするなど、独創的な意匠で構成されている。



蓮華院。当初は現在の春草廬の位置にあったが、第二次世界大戦後に竹林にある茶室という構想のもと、現在の位置へ再築された。二畳中板の小間と六畳の広間、土間から形成される

4 天授院

てんじゆいん

禅宗様の建築様式 原家の持仏堂

慶安4年(1651)に建てられた、鎌倉の旧心平寺の地藏堂。当時堂内にあった地藏像は建長寺仏殿内にある。大正5年(1916)三溪園に移築。



内苑の最奥部にひっそりとたたずんでいる



5 月華殿

げっかてん

慶長8年(1603)建築 徳川家康ゆかりの建物

徳川家康により、京都伏見城内に建てられたものといわれている。大正7年(1918)に春草庵とともに三溪園に移築された。



障壁画は桃山時代の画家、海北友松による。内部は金毛窟とつながっている



三溪記念館。三溪園の創設者、原三溪に関する資料、三溪自筆の書画、ゆかりの作家作品や美術工芸品、随春閣の障壁画などを展示している

6 臨春閣

りんしゅんかく

3棟で構成された 紀州徳川家夏の別荘

慶安2年(1649)紀州徳川家初代徳川頼宣が現在の和歌山県岩出市に建てた別荘を、大正6年(1917)三溪園内に移築。各部屋の欄間は趣向が凝らされている。



内部の襖絵は狩野探幽、狩野安信などによって描かれている



三溪園のシンボルは関東地方で最古の塔といわれている

8 旧燈明寺三重塔

きゅうとうみやうじさんじゅうのとう

国内全域から望むことができる三溪園の象徴

康正3年(1457)建築。聖武天皇創建の京都燈明寺境内にあった塔。大正3年(1914)に移築。

7 白雲邸

はくうんてい

原三溪が晩年を過ごした 数寄屋風の建物

大正9年(1920)建築。三溪園を創設した原三溪が、晩年亡くなるまでの約20年間を過ごした。当時では珍しい電話室やシャワーなど近代設備が整っていた。



毎年夏季に内部を公開している

原三溪が大正7年(1918)に建てた金毛窟は、一畳台目の極小の茶室。床柱に京都大徳寺の三門である金毛閣の高欄の架木を利用したことからこの名がついた



9 旧東慶寺仏殿

きゅうとうけいじぶつでん

禅宗様の特色が残る建築 鎌倉東慶寺の仏殿を奉納

北条時宗の妻、覚山尼が弘安8年(1285)創建した東慶寺。仏殿は寛永11年(1634)の再建時のもの。駆け込み寺として知られる。



明治40年(1907)に鎌倉から移築された

10 旧矢筈原家住宅

きゅうやないはらけじゅうたく

茅葺屋根が印象的な民家 古い民具も展示

岐阜県大野郡荘川村岩瀬にあった合掌造の屋根が特徴的な民家。ダム建設により昭和35年(1960)三溪園に寄贈された。



屋根の妻側にある火灯窓に注目

11 旧燈明寺本堂

きゅうとうみょうじほんどう

聖武天皇勅願により創建 された京都の古寺の建築

昭和62年(1987)、京都燈明寺から5年がかりで移築。建築された室町時代当初の姿に戻された。



屋内の春日厨子は国内最大級



震災や戦災で多くの改変がなされたが、平成12年(2000)完成の修復工事で、建築当初の姿に戻された

12 鶴翔閣

かくしゅうかく

飛翔する鶴を思わせる 利用できる有形文化財

明治35年(1902)三溪園造成の足がかりとなった楽室棟、茶の間棟、客間棟からなる原家の旧宅。かつては横山大観、下村観山など、日本美術院の画家が創作のために滞在したこともあった。現在も大規模な茶会、句会から、賓客接遇、結婚披露宴、展示会など、幅広い用途で利用できる。



林洞庵は昭和45年(1970)に宗徧流林洞会から寄贈された茶室



三溪園天満宮。三溪園近くの旧家、高梨家が代々祀った間門天神を移した